

# YCU PLAN

## 2013



公立大学法人 横浜市立大学  
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

## はじめに

本学における平成25年度は「第2期中期計画（23～28年度）」の3年目にあたり、上半期を総括する重要な年度にあたります。計画に掲げた取組の実現に向け、引き続き教職員が一丸となって、教育・研究・医療それぞれの分野における様々な取組を着実に進めていくことが求められています。

教育・研究分野においては、平成25年4月に鶴見キャンパスを中心とする生命医科学研究科が設置され、本学の基礎研究を創薬や臨床研究へつなげられる大学院として、医科学への応用展開力を身に付けた人材を育成していきます。また、先端医科学研究センターの新研究棟が本格稼働となり、更なる研究成果の創出、市民への還元を目指し、積極的な事業展開を図ります。学生支援の取組においては、授業料減免などの経済支援策の充実を図ることや本学のイメージを向上させるため、保護者など大学の支援者を増やす取組を行うことで、更なる「魅力ある大学」につながるよう、取組を進めます。

医療分野では、附属病院において、内視鏡センターを移転・拡充し、検査・治療待ち患者の解消や患者サービス及び医療の安全性の向上を図ります。また、センター病院において、救命集中治療室(EICU)と熱傷集中治療室(BICU)を一体化して再配置し、病床回転率の向上、確実な三次救急応需を目指すなど、附属2病院それぞれの特性を十分活かし、市民が安心出来る地域医療の「最後の砦」として高度で安全な医療の提供を進めます。

一方、これらの取組の下支えとなる経営面においては、毎年度上昇傾向にある人件費、光熱水費、施設管理費、事務費等の固定費用の管理方法の見直しを行い、その管理の徹底によって生み出される財源を、上記の教育・研究・医療の質を向上させる取組に活用する等、厳しい財政状況の中でも効果的に財源を活用していきます。

### YCU PLANとは

公立大学法人横浜市立大学が当該事業年度に取り組み主な事業、年度計画が分かるようにまとめた冊子です。第2期中期計画期間初年度から作成しています（平成22年度までは「予算概要」という名で作成していました。）。YCU PLANをご覧になることで、本学が取り組む当該事業年度の特徴ある事業について把握することができます。なお、過年度のものを含め、本学ウェブサイト上で公開していますので、是非ご参照ください。

URL：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/corp/finance/finance.html>

### 《用語解説》

#### ①中期目標・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第25条・78条

設立団体（横浜市）が、法人が達成すべき業務運営に関する目標を定め、法人に対して指示したものです。なお、公立大学法人については、特例により中期目標期間が6年間となっています。

#### ②中期計画・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第26条

法人が策定した上で、設置団体の長（横浜市長）の認可が必要になります。設立団体（横浜市）の指示（中期目標）に基づき、法人が計画的に業務を実施し、中期目標を達成するために策定するものです。

なお、本法人においては、

第1期中期計画期間：平成17年度～平成22年度

第2期中期計画期間：平成23年度～平成28年度

であり、平成25年度は第2期中期計画期間の3年目にあたります。

#### ③年度計画・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第27条

事業年度の開始前に、中期計画に基づき、その事業年度の業務運営に関する計画を定めたものです。当該事業年度の法人全体（教育・研究・医療・法人経営）の取組について、個別具体的に記載した計画となります。

#### ④予算・・・【根拠法令】地方独立行政法人法第27条 ※年度計画の一部

年度計画に基づく法人における教育、研究、診療その他の活動に関する計画を明確に計数化したものです。本法人では、大学、附属病院、附属市民総合医療センターの3部門をそれぞれ予算単位としていますが、最終的には3部門を合算して法人として表示しています。

# 目 次

公立大学法人横浜市立大学 平成 25 年度計画概要図	1、2 頁
教育・研究に関する主な取組	3、4 頁
医療に関する主な取組	5 頁
法人全体で進める取組	6 頁
<見込損益計算書>	
【法人全体】平成 25 年度 見込損益計算書	7 頁
【大学】平成25年度 見込損益計算書	8 頁
【附属病院】平成 25 年度 見込損益計算書	9 頁
【附属市民総合医療センター】平成 25 年度 見込損益計算書	10 頁
<b>参 考</b> 平成 25 年度 法人全体収支計画（現金ベース）	11 頁

※計数について、単位未満で四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

# 【公立大学法人横浜市立大学 平成25年度計画概要図】

《YCUミッション》 横浜市立大学は、国際都市横浜における知識基盤社会の都市社会インフラとして、特に教育・医療の拠点機能を担うことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

※地域貢献、国際化については、教育・研究・医療という本学における全活動に共通した目標と位置づけ取り組んで

## 教育

国際総合科学部

### ＜学部・大学院の一貫性ある教育への取組＞

- ◇優秀な人材を早期輩出するための学部4年次における大学院科目早期履修制度の運用開始
- ◆次世代を担う研究者や技術者の育成を目指した文部科学省の理数学生育成支援事業に基づく高大院一貫科学者養成プログラムの実施

### ＜生命医科学研究科の新設＞

- ◆医系と理系を融合し、ポストゲノム時代に対応できる研究開発能力を持った人材の育成を目指した、生命医科学研究科の教育・研究の推進

### ＜グローバル人材育成のための実践の場の提供＞

- ◇アカデミックコンソーシアム推進による教員及び学生交流の促進
- ◆習得した語学力を高め、知識を深めることのできる留学プログラムの新設及び充実／多様な留学生獲得に向けた英語で学ぶ科目の新設及び可視化
- ◇学生の国際理解の向上を図るための海外フィールドワークの支援の充実

### ＜共通教養の充実＞

- ◇共通教養教育の更なる充実に向けた、両学部合同FD研修会の実施、及び共通教養教育の効果の検証／専門教育の質の向上を目的とした、理学系リメディアル教育の実施体制の充実

### ＜医学教育の質の保証＞

- ◆国際認証基準に対応した教育内容の見直しなど、医学教育を取り巻く環境の変化に対応した教育システムの検討
- ◇4年次生を希望する教室に配属させる研究実習(リサーチクラークシップ)を通じたリサーチマインドの育成

全学横断的な取組

医学部

### ＜学術院における活動の推進＞

- ◆全学的な視点からの領域横断的な教育研究の推進を目的とする学術院における、新たな課題への挑戦
- ◇戦略的研究推進ユニットの事業

## 学生支援

### ＜学生の学習・生活支援＞

- ◇授業料減免制度の見直しによる経済的負担の軽減
- ◇学生の自主的な運営体制の確立と適切な支援による課外活動の推進
- ◇医学部における担任制の更なる充実

### ＜キャリア形成・就職支援＞

- ◆全学的な委員会の設置・運用による卒業までの包括的なキャリア形成支援
- ◇海外インターンシップの推進・受入先確保

### ＜健康管理＞

- ◇心身ケアにおける教職員との定期的な連携強化、福浦キャンパスでの相談体制の充実

医師・看護師等の  
人材育成・確保

法人の

コンプライ  
ガバナ

- ◇教職員のモチベーション向上のための研修制度の充実及び各種制度の検証と改善

人事制度

- ◇法人防災計画の更新・市との連携
- ◇学生の有事の際に適切な対応をするための危機管理体制の構築

危機管理

◆YCUミッションの達成に向けた教職員一体化への取組

## (3年目 ← 中期目標・中期計画期間:平成23～28年度)

育研

第2期中期計画3年目となる平成25年度は上半期を総括するための重要な年度です。2年間を振り返るとともに上半期で達成できるものは着実に達成し、下半期に向けて弾みをつけるステップアップの年と位置付けます。引き続き、中期計画達成に向け、教職員が一丸となって、教育・研究・医療の各分野で様々な取組を遂行していきます。

います。

推進  
断的な  
る学術  
の対応  
後検証

研究

### <研究推進体制の整備、研究の充実・外部資金獲得>

- ◇産学連携ラボでの企業との共同研究等、先端医科学研究センターを拠点とした研究・開発の推進
- ◇国際戦略総合特区に位置付けられている企業と本学の研究者による新たな基盤技術や医療機器等の開発の推進
- ◆科学研究費補助金や国家プロジェクト等の更なる獲得拡大に向けた支援充実／間接経費の獲得に応じたインセンティブ制度の実施

### <大学の知的資源の活用・市民への還元>

- ◇教員及び学生による地域貢献活動の推進や横浜市審議会等への本学教員の参画を促進
- ◇生涯学習講座の開催地区の拡大、市・区・民間企業等との連携による市民のニーズに合った講座の提供

的困窮度  
大学からの  
実  
、入学から  
援の実施  
: 拡充  
な情報共有  
談室の常

医療

### <市の政策医療への対応・医療機能の充実>

- ◇政策医療・災害時医療に対応した緊急・災害トリアージエリアの設置【附】、救急棟EICU等の再配置【セ】
- ◇検査・治療待ち患者の解消等を目的とした内視鏡センターの移転・拡張【附】

### <医師や看護師等の人材育成・確保・労働環境整備>

- ◆超高齢社会に対応した『地域医療を支える医師』養成に向けた、協力病院との更なる連携の検討
- ◇医師の負担軽減のための事務作業補助者活用や、女性医療スタッフが働きやすい職場づくりのための院内保育・復職支援の充実

### <医療安全管理体制・病院の運営等>

- ◇病床利用率・平均在院日数等の目標数値管理、病床の弾力的運用を通じた効率的な病床運用
- ◇迅速かつ精度の高い経営分析に基づく人件費の適正化や医薬材料費の節減
- ◇収益性等の経営基盤の強化も考慮に入れた戦略的・計画的な機器・施設整備

経営

アンス  
ンス

◇横浜市による金沢八景キャンパス耐震補強整備(市との連携)(新理科館建設・しゅん工、本校舎耐震補強実施設計等)

施設整備

◆奨学金等使途を明確にして募集する寄附金の導入など法人の自己収入増加に向けた取組

寄附制度

◆職場の具体事例を交えた実践的研修による教職員の意識向上への取組



# 教育・研究に関する主な取組

## 1 教育に関する取組

### ■ 理系と医系の融合 生命医科学研究科の新設

平成 25 年 4 月から理系と医系を融合した大学院生命医科学研究科<sup>※1</sup>を設置します。構造生物学の国内最高レベルの研究設備を有する鶴見キャンパスを拠点とし、生命を構成する物質と病気の関わりを解明し、新しい医薬品や治療方法の開発等を担う人材の育成と、生命医科学の世界的レベルの研究拠点の形成を目指します。

※1 医薬品、機能性食品から計測機器に至るまで様々な技術の研究開発業務、大学・研究機関の教育研究者など



鶴見キャンパスでの教育・研究活動の様子

### ■ グローバル人材育成のための実践の場の提供

プラクティカル・イングリッシュ等の英語教育充実及び留学生獲得に向けた取組として、再編後の新コースにおける英語による専門教養科目や、外国からの留学生及び海外留学を希望する市大生が共に英語で学べる日本文化等の科目を新規に開講していきます。また、アカデミックコンソーシアム事業では、フィリピン大学にて第 4 回総会を開催するとともに、メンバー大学の拡充を図りつつ、他大学を含めたユニット<sup>※2</sup>ごとの国際共同研究を開始します。本事業の取組を通じて、メンバー大学等との教員及び学生交流を促進していくなど、自分の意見や主張を持ち、それを英語でもきちんと伝えることができるグローバル人材の育成を目指し、大学で学んだ能力を実践に活かす場の提供を進めていきます。

※2 グローバル都市協力研究センター（GCI）では「環境」「まちづくり」「公衆衛生」の 3 ユニットを中心に研究を進めており、市大のユニットリーダーが中心となり都市の課題解決に向けた活発な議論を行っています。



プラクティカル・イングリッシュの講義

### ■ 医学教育の質の保証

医学科では、担任制を強化し学生のフォローアップ体制をさらに充実させるとともに、科学的探究心を育成するため、4 年次生を希望する教室に配属する研究実習（リサーチ・クラークシップ）を新たに開始します。

看護学科では、社会の変化に対応できる看護師を育成するため、専門科目の強化と学習支援体制を強化します。また、附属 2 病院、地域保健医療福祉施設等との連携や卒業生との交流を促進し、市域・県域医療機関への就業・定着を図ります。



シミュレーターを使った医学科学生の実習

## 2 学生支援に関する取組

### ■ 学生への経済支援の充実

昨今の厳しい社会情勢等を踏まえ、学生に対する経済支援の核となる授業料減免制度について見直します。減免基準に新たな基準を設けることにより、家計の実状にあわせて、「真に救済すべき学生」に対する支援を拡充します。

### ■ キャリア形成・就職支援の充実

就職活動の個別指導・相談体制の強化はもとより、低学年次学生（1～2年生）に対して早い段階からのキャリア形成支援に取り組みます。また、学生の海外（企業）インターンシップ<sup>※3</sup>先をさらに拡充していくため、取組を強化します。さらに、在校生の保護者を対象とした説明会を開催することにより、カリキュラムをはじめとした本学の取組について、理解と協力を求めています。

※3 海外企業での就業体験



在学生保護者対象説明会  
(平成24年11月)

## 3 研究の推進に関する取組

### ■ 先端医科学研究センターを拠点とした研究・開発の推進

平成24年12月に福浦キャンパスにしゅん工した新研究棟<sup>※4</sup>を拠点として、がんや生活習慣病、免疫アレルギー疾患等の原因究明や最先端の治療法等の開発を積極的に推し進めます。特に新たに整備した「産学連携ラボ<sup>※5</sup>」での共同研究を実施するなど、基礎医学研究を医療の現場に結びつけるトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を加速するとともに、「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」に指定されている横浜医工連携事業（横浜市事業）によって医療機器開発等を進め、創薬や先進的な治療法など、研究成果の社会への早期還元を目指します。

※4 SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート構造）5階建、延床面積約2,000㎡

※5 本学教員と企業との共同研究を活性化するための支援施設として4部屋。

今後共同研究に発展する可能性の有する企業独自の研究テーマも実施可とすることで、新たな連携の創出を図ります。



新研究棟

### ■ 大学の知的資源の活用・市民への還元

本学の地域貢献活動は、公立大学である特性を活かし、全国的に高い評価を受けています。市民の生涯学習を支援する「エクステンション講座」のほか、学生の自主的な探究心、調整力、行動力等を育成するとともに、地域課題を解決する「学生が取り組む地域貢献活動」や横浜市や市内企業等の提案する地域課題に対して、共同で調査、研究を行う「教員の地域貢献活動」を更に充実させていきます。



看護学科生による区内小学校  
での「いのちの授業」



# 医療に関する主な取組

(附属病院の取組は【附】、センター病院の取組は【セ】)

## ■ 内視鏡センター移転拡充【附】

検査待ち患者の解消、病院全体の患者導線の確保、感染管理の徹底・安全性の向上を図るため、地下1階病歴室の紙カルテ等を外部保管したことによって生じたスペースに移転・拡充します(平成26年1月稼働予定)。

## ■ 救急棟 EICU 等再配置【セ】

高度救命救急センターにおいて、今後も三次救急応需<sup>※6</sup>を確実に果たしていくためには、病床をより一層効率的に運用することが必要となるため、現在、離れて配置されている救命集中治療室(EICU)と熱傷集中治療室(BICU)を一体化して再配置するなどのレイアウト変更を実施し、機能性等を向上させます(平成26年4月稼働予定)。

※6 三次救急救急車応需率：95%(平成24年度見込) [参考]平成23年度：91%

## ■ 医療情報システム<sup>※7</sup>の更新に向けた取組【附】

診療・教育・研究の質の向上、業務の効率化、患者サービスの向上等を図るため、平成26年度に現行システム(平成20年7月稼働)の更新を予定しており、平成25年度はシステムの設計や開発を行います。

※7 オーダリング、電子カルテ、医事会計などのシステムを中心として、各部門システム等と接続し、連携する医療業務全体を支える総合的なシステムです。

## ■ センター病院における教育体制の充実【セ】

平成20、21年度の医学科定員増を契機に、センター病院においても医学科学生への病棟実習受入れを行っています。平成24年10月に、医学科学生から臨床研修医まで継ぎ目なく教育・研修を行うことを目的に、「臨床教育研修センター」を設置しています。医学科学生と臨床研修医が共に学ぶ「ランチョンセミナー」を開催するなど、院内の医学教育を充実させていくとともに、医学教育及び臨床研修を一体的に管理・運営し、シームレスなキャリア形成支援に取り組んでいきます。



「臨床教育研修センター」でのランチョンセミナー

## ■ 医療機器整備【附】【セ】

附属2病院の医療機器の状況を把握し、収益性・患者サービスの向上・老朽度等明確な基準をもとに効果的に投資を行います。また、施設整備においても、故障個所の改修だけではなく、医療ニーズに対応した整備を積極的に進めていきます。

●平成25年度 主な購入予定機器

【附】3T(テスラ) -MRI装置 ほか

【セ】脳神経外科手術用顕微鏡 ほか



# 法人全体で進める取組

## 1 業務運営の改善に関する取組

### ■ 法人の健全性確立のためのガバナンス強化

YCUミッションの達成に向け、理事長・学長の下で法人教職員が病院・大学の垣根を越えて一丸となって自主・自律的な大学運営を遂行していきます。そのため、理事長・学長をはじめ各部門長からのメッセージを教職員に伝達するなど、法人トップの方針伝達を推進していきます。

YCUミッションとは、大学の長期的な基本方針を定めた以下のものです。

～横浜市立大学は、国際都市横浜における知識基盤社会の都市社会インフラとして、特に教育研究・医療の拠点機能を担うことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。～

### ■ 寄附制度（「YCUサポート募金」）の充実

寄附金の受入拡大を目指し、平成 25 年度は奨学金等寄附金の使途や目標額を設定した寄附を導入します。さらに、中長期的な視点で、特に寄附の受け皿の拡充に注力し、少額でも多くの方から寄附いただく仕組みづくりとして、クレジットカード決済等による継続的な受入や支払方法・メニューの拡充等を進め、制度の充実を図ります。

### ■ 職員の能力開発など人材育成の取組・人事制度の効果的な活用

法人の教職員が大学の理念を理解し、責任感と誇りを持って業務に取り組めるよう各教職員の段階に応じた研修を充実させます。また、教員のモチベーション向上を目的として、本学に長年勤務し、優秀な業績のある教員を対象として、6 か月から1年の長期間にわたり専門分野に関する研究に専念できる機会を与えるサバティカル制度を本導入します。

## 2 安心、安全なキャンパス・診療環境の整備

金沢八景キャンパスでは、「横浜市公共建築物耐震対策事業計画」に基づき、建替え、耐震補強が必要とされた建物について、平成 27 年度末を目途として順次整備を行っています。平成 25 年度も引き続き横浜市の事業として、新理科館建替工事（平成 25 年度末しゅん工予定）、文科系研究棟及び本校舎の耐震補強に向けた実施設計、（仮称）学生交流センター建設に向けた実施設計等を行います。



新理科館(完成予想図)

また、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、①大学においては、有事の際の学生の安全確保及び避難してきた地域住民や帰宅困難者等への対応のため、②附属 2 病院においては、災害医療拠点病院として今後大規模災害が発生した場合においても病院機能を維持し、患者の安全を確保するため、それぞれ体制・設備面の充実を図ります。

# 【法人全体】平成25年度 見込損益計算書

## <経常収益>

(単位:百万円)

区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
運営交付金収益	10,319	10,131	188
授業料収益等	2,842	2,935	▲ 93
医業収益	45,523	43,653	1,870
受託研究等収益	1,595	1,463	132
補助金収益	1,382	1,154	228
その他収益	617	480	137
資産見返負債戻入	1,145	1,120	25
<b>経常収益 合計</b>	<b>63,423</b>	<b>60,935</b>	<b>2,487</b>

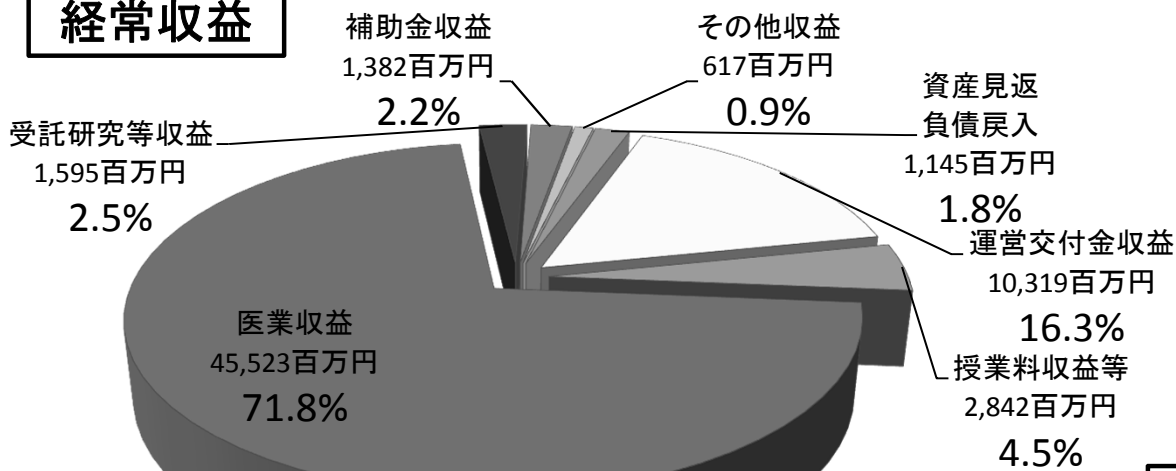
## <経常費用>

(単位:百万円)

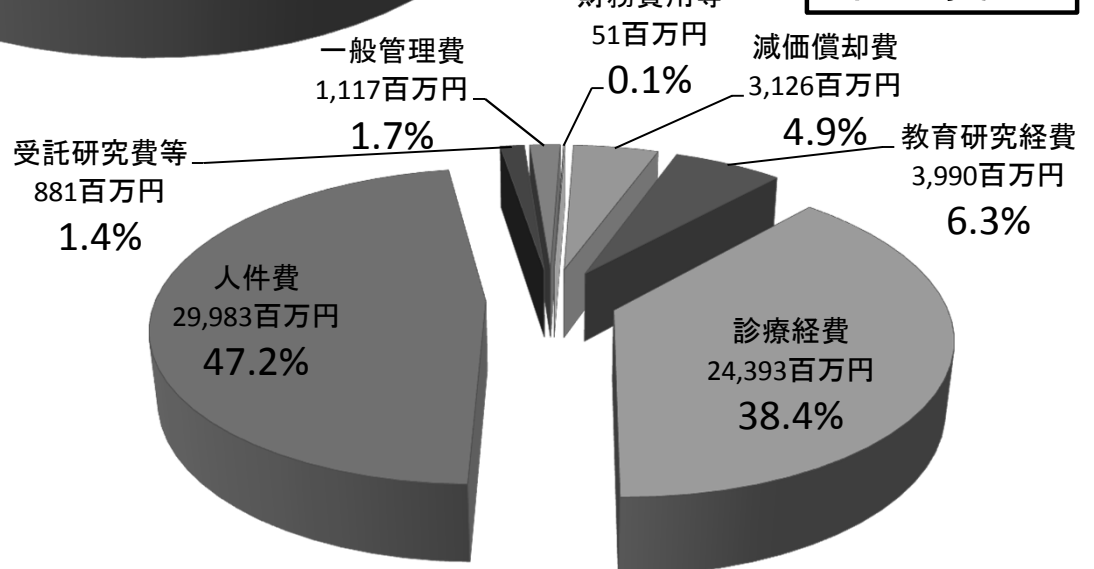
区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
教育研究経費	3,990	3,961	29
診療経費	24,393	23,273	1,120
人件費	29,983	28,892	1,091
受託研究費等	881	724	157
一般管理費	1,117	1,142	▲ 25
財務費用等	51	73	▲ 22
減価償却費	3,126	3,070	56
<b>経常費用 合計</b>	<b>63,541</b>	<b>61,135</b>	<b>2,406</b>

<b>当期純損益</b>	<b>▲ 118</b>	<b>▲ 200</b>	<b>82</b>
目的積立金取崩額	118	200	▲ 82
<b>当期総損益</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 経常収益



## 経常費用



# 【大学】平成25年度 見込損益計算書

## <経常収益>

(単位:百万円)

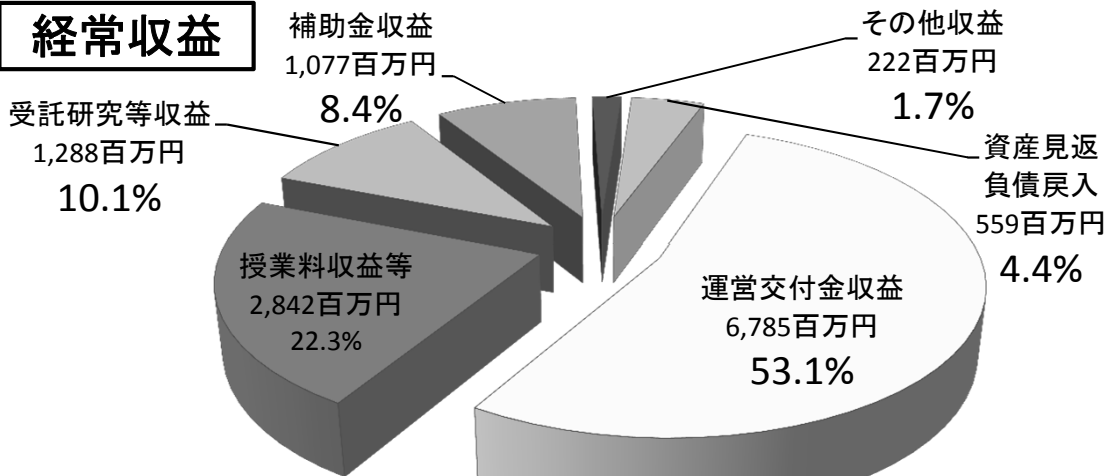
区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
運営交付金収益	6,785	6,636	149
授業料収益等	2,842	2,935	▲ 93
受託研究等収益	1,288	1,213	75
補助金収益	1,077	830	247
その他収益	222	155	67
資産見返負債戻入	559	569	▲ 10
<b>経常収益 合計</b>	<b>12,773</b>	<b>12,338</b>	<b>435</b>

## <経常費用>

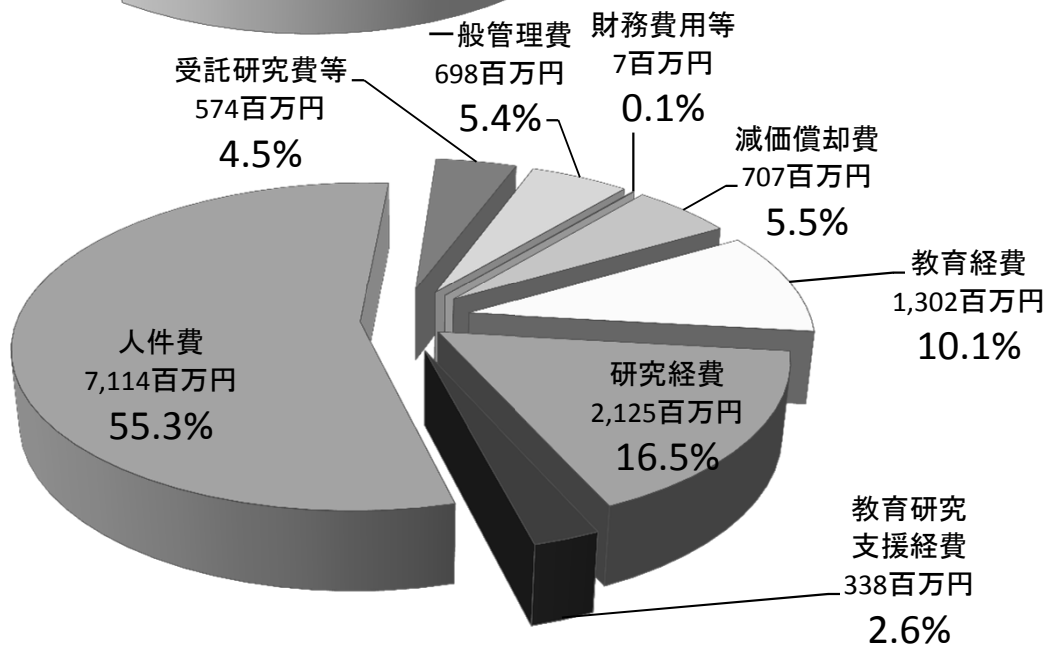
(単位:百万円)

区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
教育経費	1,302	1,216	86
研究経費	2,125	2,125	0
教育研究支援経費	338	393	▲ 55
人件費	7,114	6,788	326
受託研究費等	574	474	100
一般管理費	698	710	▲ 12
財務費用等	7	8	▲ 1
減価償却費	707	702	5
<b>経常費用 合計</b>	<b>12,865</b>	<b>12,416</b>	<b>449</b>
<b>当期純損益</b>	<b>▲ 92</b>	<b>▲ 78</b>	<b>▲ 14</b>
目的積立金取崩額	92	78	14
<b>当期総損益</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 経常収益



## 経常費用



# 【附属病院】平成25年度 見込損益計算書

## <経常収益>

(単位:百万円)

区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
運営交付金収益	2,346	2,427	▲ 81
医業収益	21,144	20,346	798
受託研究等収益	167	110	57
補助金収益	187	195	▲ 8
その他収益	216	180	36
資産見返負債戻入	341	332	9
<b>経常収益 合計</b>	<b>24,401</b>	<b>23,590</b>	<b>811</b>

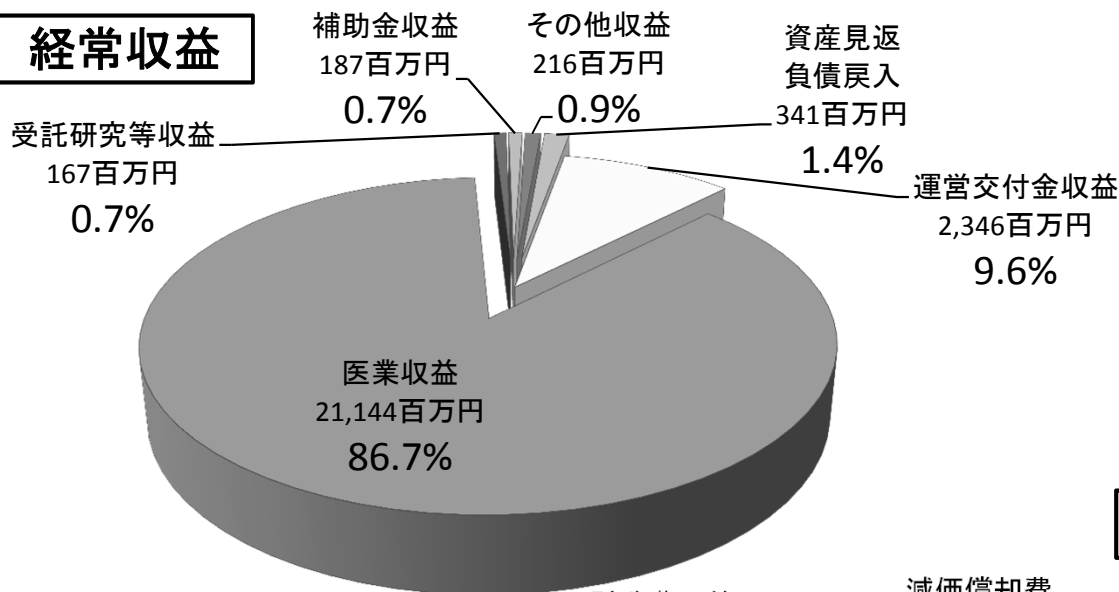
## <経常費用>

(単位:百万円)

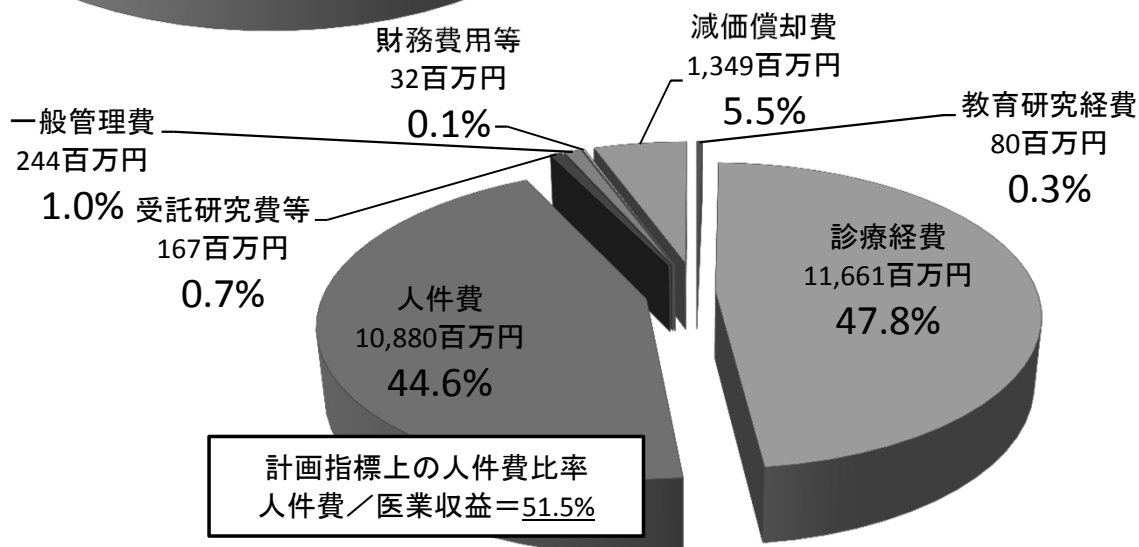
区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
教育研究経費	80	109	▲ 29
診療経費	11,661	11,361	300
人件費	10,880	10,460	420
受託研究費等	167	110	57
一般管理費	244	238	6
財務費用等	32	32	0
減価償却費	1,349	1,335	14
<b>経常費用 合計</b>	<b>24,413</b>	<b>23,645</b>	<b>768</b>

<b>当期純損益</b>	<b>▲ 12</b>	<b>▲ 55</b>	<b>43</b>
目的積立金取崩額	12	55	▲ 43
<b>当期総損益</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 経常収益



## 経常費用



計画指標上の人件費比率  
人件費/医業収益=51.5%



# 【附属市民医療総合センター】平成25年度 見込損益計算書

## <経常収益>

(単位:百万円)

区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
運営交付金収益	1,188	1,068	120
医業収益	24,379	23,307	1,072
受託研究等収益	140	140	0
補助金収益	118	129	▲ 11
その他収益	179	145	34
資産見返負債戻入	245	219	26
<b>経常収益 合計</b>	<b>26,249</b>	<b>25,008</b>	<b>1,241</b>

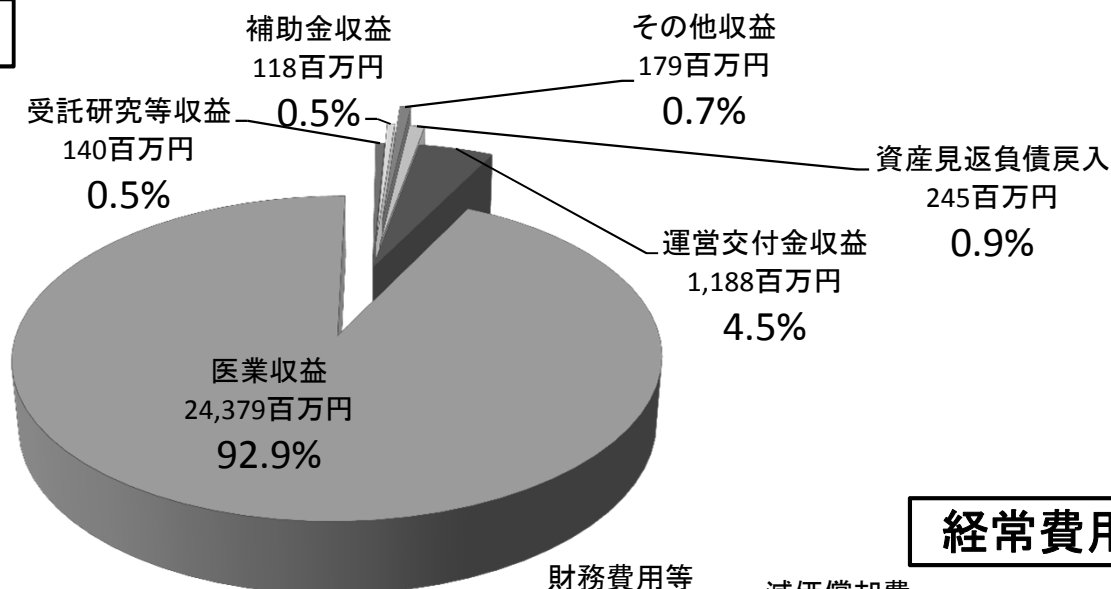
## <経常費用>

(単位:百万円)

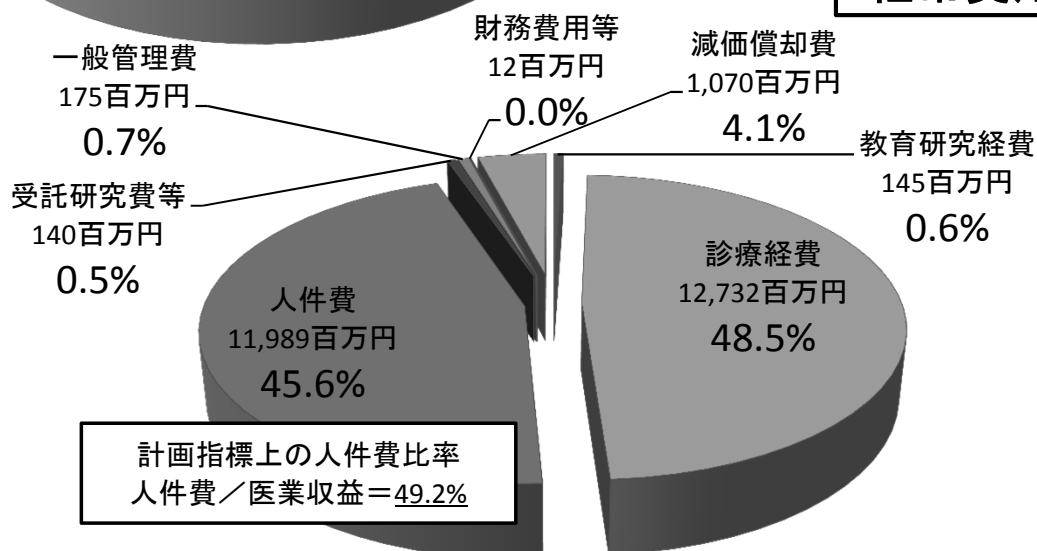
区分	平成25年度予算	平成24年度予算	差引
教育研究経費	145	119	26
診療経費	12,732	11,912	820
人件費	11,989	11,644	345
受託研究費等	140	140	0
一般管理費	175	194	▲ 19
財務費用等	12	33	▲ 21
減価償却費	1,070	1,033	37
<b>経常費用 合計</b>	<b>26,263</b>	<b>25,075</b>	<b>1,188</b>

<b>当期純損益</b>	<b>▲ 14</b>	<b>▲ 67</b>	<b>53</b>
目的積立金取崩額	14	67	▲ 53
<b>当期総損益</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 経常収益



## 経常費用



計画指標上の人件費比率  
人件費/医業収益=49.2%

**参 考**

**平成25年度 法人収支計画（現金ベース）**

<収益的収支>

（単位：百万円）

	平成25年度予算
運営交付金	9,513
自己収入	50,350
授業料及び入学金検定料	2,736
附属病院収入	45,524
補助金収入	1,452
その他収入	638
受託研究収入等	1,605
貸付金収入(奨学金返還金)	33
目的積立金取崩額	118
収益的収入 合計	61,619

	平成25年度予算
業務費	59,455
教育研究経費	4,189
診療経費	24,634
一般管理費	1,135
人件費	29,497
貸付金(奨学金)	56
受託研究費等	931
収益的支出 合計	60,442

<資本的収支>

（単位：百万円）

	平成25年度予算
運営交付金	1,404
長期借入金収入	1,000
目的積立金取崩額	669
資本的収入 合計	3,073

	平成25年度予算
施設整備費	2,279
長期借入金償還金	1,266
資本的支出 合計	3,545

<参考>

（単位：百万円）

	平成25年度予算
全体(収入－支出)	705